

第1回会津美里町総合計画審議会 開催記録（会議内容の要点記録）

日時 平成26年8月29日（金）午前9時～午前10時40分

場所 会津美里町役場高田庁舎 第6会議室

出席委員：石光真委員 大竹勉委員 白井栄一委員 鶴賀イチ委員 千葉正秀委員
新山諭委員 杉原由美委員 斎藤信子委員 須田保子委員 櫻井宏信委員
武藤裕一委員 横谷光子委員 上杉述史委員 全14名中13名出席

欠席委員：遠藤秀一委員

他出席者

会津美里町長 渡部英敏

事務局：まちづくり政策課長 鈴木直人 課長補佐 佐々木康 係長 渡部雄二
担当 鈴木英哉

同席コンサルタント：(株)青島裕之建築設計室 青島（裕）、宮司、樋口
(株)計画技術研究所 須永、西原

○委嘱状交付

名簿順に名前を読み上げた後、代表で町長より石光委員へ交付

○開会

○町長挨拶

平成18年度から第1次振興計画、平成23年度から第2次総合計画で5年毎に計画を策定し、まちづくりを実施してきた。第2次総合計画は平成27年度までとなっており、皆様には平成28年度からの第3次総合計画について審議していただくこととなる。

忌憚のない御意見をいただきたい。

○自己紹介

名簿順に各委員、事務局の自己紹介後、同席コンサルタントの紹介
コンサルタント及びインターンシップの同席について了承

○会長、副会長の選出

千葉委員：事務局に案があれば、それでいいのでは？

事務局：会長に石光委員、副会長に大竹委員でお願いしたい。

各委員：異議なし

○諮問

町長より石光会長へ諮問

「会津美里町第3次総合計画（案）の策定について」

○議事

1. 会津美里町総合計画審議会条例について

（事務局から審議会条例内容について説明）

事務局：第2次総合計画の審議会までは、当局等で策定した計画（案）について諮問し、審議会からは、案への意見として答申いただいていたが、今回は策定そのものを審議会にお願いすることとなり、計画（案）をもって答申していただく様になる。

（質疑）

Q 策定期間が次年度までであり、各種団体の役職員から委員が選出されているが、役職を離れた場合の委員の取扱いはどうなるのか？

A 基本的にはこのメンバーで計画（案）策定までご審議していただきたいと考えております。次年度までの計画策定期間となるため、各所属での役員改選等が予測されるが、各委員がその所属団体に属している限りは、同委員に引き続きお願いしたいと考えている。団体から離れている場合のみ、その団体から再度推薦していただく。

2. 会津美里町第3次総合計画策定について

（事務局から総合計画の概要及びスケジュール案、町の予算等について説明）

（説明のなかで、第1回WSの内容について、事務局及びコンサルタントで設定することについて了承を求める）

（質疑）

質問・意見ともに無し

3. その他

（アンケート設問案等について、コンサルタントから説明）

（質疑）

Q この場で修正等について意見を出すのか？

A この場で修正等の意見をいただきたい。ただし、修正後に再度審議会を開催することが期間的に難しいので、修正後の再確認は会長に一任いただきたい。

Q 了解した。

Q 問2-2で50年後を想定してとなっているが、なぜ50年後なのか？

A 現実的に捉えられるが、遠い未来として設定している。「50年後」の表記は誤り

であり、2050年と訂正したい。

Q 回答の際に、選択したものに○を付ける方式だが、選択肢が○数字では記載しにくいのでは？

A ○のない数字等へ変更します。

Q 高齢者が多くなっているなかで、2050年と設定した場合に本気で回答いただけるのか疑問である。

A 中長期の計画策定の上での設問として、ご理解いただきたい。

Q 2050年というものはよくあるのでその設定は理解できるが、通常2050年とする場合は夢を語る場合であり、設問は行政課題となっているのでアンバランスに感じる。

A 設定については、再度コンサルタントと協議し、その結果については会長へお諮りしたい。

Q 了解した。

Q 年代別の質問は、10代と60代以上となっており、その間の世代の意見は聞かないのか？

A 最初の属性の設問で分析が可能なため、本設問についてはすべての世代へ聞く方式に変更します。

Q 定住意向などの設問があるが、市街地と山間部での回答傾向は差がでることが予想されるが、どのように分析するのか？

A 問1で地域以外に行政区を記入していただく方式であり、それを分類・分析していきたい。

Q 行政区を記載する方式で問題ないのか？

A 表記方法について再度検討し、会長へ確認とさせていただきたい。

Q 2000名へアンケートを実施としているが、その人数の妥当性は？

A 町民意識調査は1000名を対象に実施しているが、統計調査員のご協力をいただき実施しているので、約8割の回収率となり、800件の回収がある。今回は郵送回収としており、これまでの実績から判断すると、回収率は50%を下回るものが予想される。町民意識調査と同等の回収件数としたいため、対象は2000件とした。

Q 各選択肢に「わからない」等の回答があるが、無いほうが町民意見を聞きやすいのでは？

A ご意見のとおり「わからない」等の選択肢は削除する。

Q 設問等の文章表記が硬く感じる。

A やわらかい表現に変更する。

○閉会